

【全体講評】

令和5年度の第1次試験が終了しました。8月8日時点のTACデータリサーチ上での各科目の平均点は下表のとおりです（注：すべてデータリサーチ開始後初日分（速報値）のデータです）。なお、各科目の平均点は、「全員正解」の問題の発表前の数値です。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度と令和5年度の差異 ^{※1}
経済	64.18	63.39	63.96	54.75	59.23	4.48
財務	61.31	57.04	64.14	55.33	56.68	1.35
経営	56.04	58.87	64.63	59.54	59.31	▲ 0.23
運営	63.43	54.58	61.18	59.68	54.50	▲ 5.18
法務	55.77	57.72	56.82	67.31	64.05	▲ 3.27
情報	66.01	67.51	54.61	58.17	56.74	▲ 1.44
中小	54.87	64.10	54.30	59.93	63.84	3.90
全体	60.01	60.36	60.09	59.32	59.15	▲ 0.17
合格率	30.2%	42.5%	36.4% ^{※2}	28.9% ^{※3}	?	

※1 四捨五入の関係で、単純な差し引きとは必ずしも一致しない。

※2 中小第22問（設問1・2）は全員正解。

※3 運営第3問、情報第6問は全員正解。

なお、1次本試験分析会で扱う正答率（ランク）は、A（正答率80%以上）、B（正答率60%以上80%未満）、C（正答率40%以上60%未満）、D（正答率20%以上40%未満）、E（正答率20%未満）を意味します。

【経済学・経済政策】

■設問数とページ数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
設 問 数	25	25	25	25	25
5 択 問 題	0	1	18	17	23
頁 数	24	24	25	25	26

令和5年度の問題数は、例年同様25問である。また、5択問題の出題は23問であった。

■出題領域

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	出題数	出題数	出題数	出題数	出題数
マクロ経済学	12	13	14	12	14
ミクロ経済学	13	12	11	13	11
計	25	25	25	25	25

令和4年度と比較して、マクロ経済学の問題数が増加し、ミクロ経済学の問題が減少した。

■統計問題・時事問題の設問数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
設 問 数	2	2	2	2	3

例年は2問構成であるが、令和5年度は3問出題されている。

■難易度

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
平 均 点	64.18	63.39	63.96	55.75	59.23

※各年度速報値のデータ

令和5年度の平均点は、令和4年度と比べると4.48点上昇であった。

	A	B	C	D	E	合計
令和4年度	3	8	10	2	2	25
令和5年度	3	11	7	4	0	25

※正答率、ランクともTAC データリサーチによるもの。ランクの意味は以下のとおり。

- A : 正答率 80%以上
- B : 正答率 60%以上 80%未満
- C : 正答率 40%以上 60%未満
- D : 正答率 20%以上 40%未満
- E : 正答率 20%未満

令和 5 年度は、令和 4 年度よりも A ランクの問題数は変わらなかったが、C ランクが 3 問減少したのに対して B ランクが 3 問増加し、E ランクが 2 問減少したのに対して D ランクが 2 問増加した。このあたりが平均点を若干押し上げた要因であると考えられる。

■参考

問題	テーマ	難易度
第1問	各国・地域の GDP	△
第2問	日本の経常収支の内訳	△
第3問	日本とアメリカにおける家計の金融資産構成	△
第4問	国民経済計算	○
第5問	物価指数	○
第6問	景気動向指数	△
第7問	45度線分析	△
第8問 (設問1)	IS 曲線	○
(設問2)	LM 曲線	○
第9問	為替レート	△
第10問 (設問1)	マンデル＝フレミングモデル	×
(設問2)	マンデル＝フレミングモデル	○
第11問 (設問1)	国債	△
(設問2)	政府の国債発行	
第12問	市場均衡と余剰分析	△
第13問	価格上限規制	△
第14問	完全競争企業の費用構造	○
第15問	等産出量曲線	×
第16問	エンゲル曲線	△
第17問	外部不経済	○
第18問	情報の不完全性	○
第19問	費用逡減産業	○
第20問	需要独占	×
第21問	自由貿易の理論	△
第22問	ゲーム理論	○

<難易度>

○：取りたい問題

△：できれば取りたい問題

×：できなくても仕方ない問題

【財務・会計】

■設問数とページ数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
設問数	25	25	25	25	25
5択問題	1	1	0	2	0
頁数	18	19	16	18	17

令和5年度の問題数は、令和4年度と同様25問である。また、5択問題の出題はなかった。頁数は令和3年度より1頁少ない。頁数は表やグラフなどが出題される場合、増加する傾向がある。

■出題形式

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
計算問題	12	12	10	11	11
理論(文章)問題	13	13	15	14	14

基本的には、計算問題と理論問題はバランスよく出題される年が多いが、令和5年度は計算問題よりも理論問題が多い(ここ3年は理論問題の方が多傾向にある)。

■出題領域

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ファイナンス	12	9	11	13	11
管理会計	4	5	5	2	4
制度会計	9	11	9	10	10
計	25	25	25	25	25

※ファイナンスは、意思決定会計、企業財務論、証券投資論が該当する。意思決定会計は、管理会計に分類されることもあるが、便宜上、ファイナンスに該当するものとする。

※管理会計は、経営分析、管理会計が該当する。

※制度会計は、財務諸表論、貸借対照表および損益計算書の作成プロセス、キャッシュフロー計算書の作成プロセス、原価計算、会計規則などが該当する。

令和5年度は、令和4年度と比べると管理会計からの出題が増え、ファイナンスの出題が減っている。

■難易度

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
平均点	61.31	57.04	64.14	55.33	56.68

※各年度速報値のデータ

令和5年度の平均点は、令和4年度と比べると1.35点プラスであり、昨年よりはやや取り組みやすかったと判断される。

ランク	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	出題数	出題数	出題数	構成比	出題数	構成比	出題数	構成比	出題数	構成比
A	4	4	1	4%	8	32%	1	4%	3	12%
B	11	11	10	40%	9	36%	10	40%	13	52%
C	6	6	11	44%	4	16%	12	48%	4	16%
D	2	2	3	12%	3	12%	2	8%	5	20%
E	2	2	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
計	25	25	25	100%	25	100%	25	100%	25	100%

出題領域	A	B	C	D	E	合計
制度会計	0	4	2	4	0	10
管理会計	1	2	1	0	0	4
ファイナンス	2	7	1	1	0	11
合計	3	13	4	5	0	25

※正答率、ランクとも TAC データリサーチによるもの。ランクの意味は以下のとおり。

A：正答率 80%以上

B：正答率 60%以上 80%未満

C：正答率 40%以上 60%未満

D：正答率 20%以上 40%未満

E：正答率 20%未満

令和5年度はBランクの問題が過半数を占め、その他はA、C、Dがほぼ均等にある状態である。例年と比較してDランクの問題が多くかつそれが前半に集中していたため、それに惑わされることなく、後半のBランクの問題にしっかりと対応できたかが得点獲得において重要であったと考えられる。

問題	テーマ	難易度	2次
第1問	売上原価	△	×
第2問	収益の認識基準	×	×
第3問	減価償却費	×	△
第4問	連結会計	×	△
第5問	会社法における計算書類の作成、開示	○	×
第6問	法人税（税効果会計）	×	×
第7問	剰余金の配当と処分	○	×
第8問	貸借対照表の表示	○	×
第9問	キャッシュフロー計算書	○	○
第10問	月末仕掛品原価（総合原価計算）	×	×
第11問	財務諸表および財務比率への影響（経営分析）	○	◎
第12問（設問1）	付加価値率（経営分析）	○	△
第12問（設問2）	生産性（経営分析）	△	△
第13問	キャッシュ・コンバージョン・サイクル	△	△
第14問	1株当たりの配当	○	×
第15問（設問1）	ROE（財務レバレッジ）	○	△
第15問（設問2）	企業全体の価値に対する影響（MM理論）	○	×
第16問	原価概念	△	△
第17問	投資評価（内部収益率法）	×	○
第18問	ポートフォリオ理論	○	×
第19問	効率的市場仮説	○	×
第20問	株主価値（割引キャッシュフローモデル）	○	○
第21問	サステナブル成長率	△	×
第22問	市場リスク	△	×
第23問	為替予約	○	○

<難易度>

○：取りたい問題

△：できれば取りたい問題

×：できなくても仕方ない問題

<2次>

◎：必須

○：おさえておきたい

△：できればおさえておきたい

×：特段不要

【企業経営理論】

<科目全体の平均点>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
平均点	56.04	58.87	64.63	59.54	59.31
難易度ランクA、Bの 設問数とその割合	19/41 (約 46%)	18/41 (約 44%)	23/41 (約 56%)	26/41 (約 63%)	26/41 (約 63%)

なお、1次本試験分析会で扱う正答率（ランク）は、A（正答率80%以上）、B（正答率60%以上80%未満）、C（正答率40%以上60%未満）、D（正答率20%以上40%未満）、E（正答率20%未満）を意味します。

<過去5年の出題数と頁数>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
設問数	41	41	41	41	41
5択問題	21	22	23	30	24
頁数	38	46	43	39	38
1問あたりの 処理時間(分)	約 2.2	約 2.2	約 2.2	約 2.2	約 2.2

<過去5年のランキングの全体比較>

ランク	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和4年の増減 (対前年)
	設問数	構成比	設問数	構成比	設問数	構成比	設問数	構成比	設問数	構成比	
A	4	9.8%	6	14.6%	12	29.3%	8	19.5%	12	19.5%	+4
B	15	36.6%	12	29.3%	11	26.8%	18	44.0%	14	44.0%	▲4
C	15	36.6%	16	39.0%	13	31.7%	9	22.0%	7	22.0%	▲2
D	3	7.3%	5	12.2%	4	9.8%	3	7.3%	7	7.3%	+4
E	4	9.8%	2	4.9%	1	2.4%	3	7.3%	1	7.3%	▲2

<領域別のランキングの状況>

(令和5年度)

	A	B	C	D	E	合計
経営戦略論	5	5	2	1	0	13
経営組織論	4	3	0	2	1	10
人的資源管理・労働関連法規	1	2	1	0	0	4
マーケティング	2	4	4	4	0	14
合計	12	14	7	7	1	41

(令和4年度)

	A	B	C	D	E	合計
経営戦略論	2	6	3	0	2	13
経営組織論	1	2	2	2	1	8
人的資源管理・労働関連法規	1	4	1	0	0	6
マーケティング	4	6	3	1	0	14
合計	8	18	9	3	3	41

★令和5年度は、

A ランク 12 題 (2 点×8+3 点×4=28 点)

B ランク 14 題 (2 点×6+3 点×8=36 点)

C ランク 7 題 (2 点×5+3 点×2=16 点)

D ランク 7 題 (2 点×4+3 点×3=17 点)

E ランク 1 題 (2 点×0+3 点×1=3 点)

※A ランク、B ランクで 64 点 (令和 4 年は 62 点)。基礎力に洩れがなければ十分に合格できる状況であった。通常は、A ランク、B ランクに加え、C ランクの半分程度採れば合格するイメージになる)。

【運営管理】

運営管理は、TAC データリサーチ（速報値）による令和4年度の平均点が59.68点であるのに対し、令和5年度の平均点は54.0点であり、5.18点低下となりました。今年度の1次試験で最も低い平均点かつ、直近5年の運営管理では最も低い平均点であり、難易度としてはやや難しかったと考えられます。難化の要因としては、5択問題の増加（44問中39問は過去最大）、組合せ問題の増加、既出の領域であっても問われている論点が異なる、未学習の法律問題の増加などにより、問題の処理に時間を要した受験生が多かったことが推測されます。

生産管理と店舗・販売管理の領域別に見た正答率ごとの問題数は、以下のとおりです。

出題領域	出題数 (マーク数)	正答率（ランク別）出題数（マーク数）				
		A	B	C	D	E
生産管理	22	2	8	7	5	0
店舗・販売管理	22	5	5	8	4	0
合計	44	7	13	15	9	0

（参考）2022年

出題領域	出題数 (マーク数)	正答率（ランク別）出題数（マーク数）				
		A	B	C	D	E
生産管理	22	5	7	5	4	1
店舗・販売管理	22	8	5	5	4	0
合計	44	13	12	10	8	1

相対的に、店舗・販売管理の方が、若干平均点が高くなると思われます。しかし、その差はわずかであり、生産管理、店舗・販売管理ともほぼ同様の難易度と考えられます。

全体的には、A、Bランクの問題をすべて正解すると45点、Cランクの問題の半分まで得点できた場合には63点を獲得できた計算になります。得点しづらいD、Eランクの問題を正解できる必要性は低く、A、Bランクの問題の取りこぼしがないことが合格の要件となります。

次年度以降の学習の取り組みとしては、用語を正確に覚え、その活用方法や得られる効果などまで考えるような取り組みを行って、確実に取らなければいけない基本事項を問われる問題の正答率を向上させ、問題の取り組む順序や取捨選択など時間配分などのタイムマネジメントを意識した取り組みも必要となってきます。

問 題	出題テーマ	正答率	ランク	難易度
第1問	評価指標	63%	B	◎
第2問	工場レイアウト	85%	A	◎
第3問	VE	63%	B	○
第4問	製品開発 製品設計	75%	B	○
第5問	循環型社会形成推進 法	65%	B	○
第6問	ライン生産方式のバ ランスロス、生産量	52%	C	○
第7問	ストラクチャ型部品 表	84%	A	○
第8問	P E R T	55%	C	△
第9問	ディスパッチングル ール	45%	C	×
第10問	工数管理、余力管理	52%	C	○
第11問	経済的発注量	58%	C	○
第12問	新QC7つ道具	67%	B	△
第13問	進捗管理	37%	D	△
第14問	運搬活性示数 ※	30%	D	△
第15問 (1)	外掛け法の余裕率	71%	B	○
第15問 (2)	標準時間の算出	65%	B	○
第16問	作業工程分析	53%	C	△
第17問	経済性工学（設備投 資案の評価）	20%	D	×
第18問	生産ラインの改善活 動	41%	C	○
第19問	T P M	21%	D	×
第20問	省エネ法	24%	D	×
第21問	生産職場の管理指標	63%	B	◎

◎：3 ○：11 △：4 ×：4 平均54%

問 題	出題テーマ	正答率	ランク	難易度
第22問	ショッピングセンターの現況	84%	A	◎
第23問	商店街実態調査	86%	A	◎
第24問	食品リサイクル法	57%	C	△
第25問	大規模小売店舗立地法	74%	B	◎
第26問	消防法	55%	C	△
第27問	都市再生特別措置法 (立地適正化計画)	29%	D	△
第28問 (1)	粗利益高	67%	B	○
第28問 (2)	販売計画	68%	B	○
第29問 (1)	計画購買	97%	A	◎
第29問 (2)	バラエティシーキング	33%	D	△
第30問	食品表示法	23%	D	×
第31問	在庫管理 ※	75%	B	◎
第32問	需要予測	77%	B	○
第33問	輸送手段	82%	A	○
第34問	中継輸送における実車率、積載率	46%	C	△
第35問	物流センターの運営	48%	C	○
第36問	JAN シンボル	48%	C	◎
第37問	GTIN	37%	D	◎
第38問 (1)	併買分析 指標	59%	C	△
第38問 (2)	併買分析 リフト値	41%	C	○
第39問	HACCP	48%	C	×
第40問	ロイヤルカスタマー	83%	A	◎

◎ : 8 ○ : 6 △ : 6 × : 2 平均 60%